

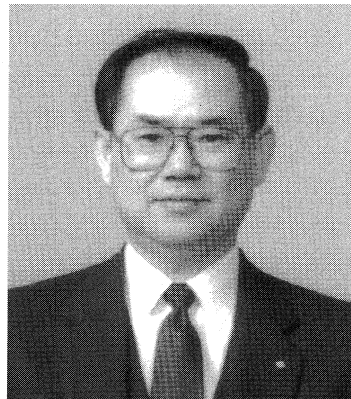
日本をキリストへ 協力

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
TEL 03-3291-5035 (総動員伝道内)
www.gospeljapan.com/dd/

二十回目の総会を期に

伝道団体連絡協議会 会長
姫井 雅夫



一九八四年に「日本をキリストへ」伝道団体連絡協議会」が誕生しました。よく言われることですが、教会組織（モダリティ）と宣教組織（ソダリティ）によつ

て教会の歴史は形成されています。宣教組織としての存在が「伝道団体」です。宣教・伝道と教会形成が伝道団体と教会の一致によって力強く進められていくのです。伝道団体と教会の協力体制はますますしっかりしたものにしていかねばなりません。伝道団体連絡協議会は伝道団体相互の理解、協力、支援、そして教会との連携を深めることを目指しています。あれから二十一年が過ぎていきました。この目標達成のためにいろいろなことを企画し、実施してきました。

時代の流れは私たちが予想していたよりも早いような気がします。子どもの数の減少と教会学校の関係も予測はしています。

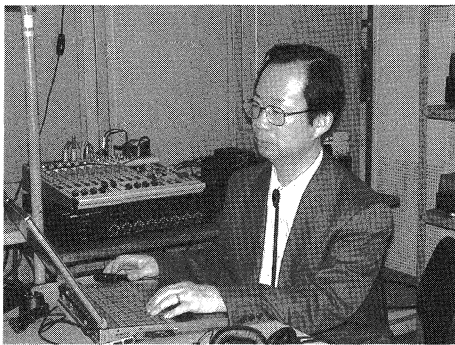
も、それ以上に影響が早く教会に訪れてきています。それは子どもの伝道に専門に携わる伝道団体にも言えることです。教会学校の教材や指導者養成にあたっている団体にとって、教材が売れない、養成講座に参加する人が少ないなどの現象が見えてくると存続が危ぶまれてきます。中高生、大学生伝道に携わっている団体にとつても、数年後に必ず訪れてくる現象です。メディア伝道に関わる団体にとつても、ますます進歩する機器を導入することは大変なことです。それに追いついていける経済力が、教会の経済力と比例します。私が属している総動員伝道も、以前は地方の教会を訪れ、牧師に集まっていたり、地域全体へ集まると集まると、と声をかけると、そうだとまとまりを見ることが出来ました。ところが最近では、牧師たちが集まりません。忙しいのでしよう。さらに「なぜみんなやらなさないやいけませんか。私は自分のペースで自分の地域に伝道しています。教理の違う団体と気を遣いながら一緒にやるのはいやです」との返事が返ってきます。まさに「総動員」は難しい時代になったのです。確かに時代は動いています。変化しています。経済的な課題はどの団体にも及んでいます。いのちのことは社だけでも以前は六団体で参加していました。でも今は統合して一団体に加盟しています。伝道団体連絡協議会の会費がここだけでも六分の一になったのです。

加盟団体紹介

パラビジョンのなりたちと近況報告

パラビジョン代表 竹内 恵

パラビジョンは今から二十一年前、一九八三年十月三十一日、柳沢清兄によりキリスト教会の視聴覚宣教の業に仕える働きとしてスタートしました。会社登記に際し創立の日を宗教改革記念日としたのは、柳沢兄の敬虔な福音主義信仰に根ざすものでした。また組織を有限会社としたのは、信徒による自発的組織であることと、経済的に自立した組織形態をとることにより自らの信仰と異なる本意な仕事には否と言え立場を守るためだったのです。また、クリスチャンビジネスとして取引先やお客様に対し良い証しとなることを目指してきました。創立のきっかけは、当時ようやく普及しはじめた家庭用ビデオを宣教媒体として活用する、その



コンテンツを制作すること
を創立者が発想したことで
した。実際に
仕事を始める
と、福音派教
会にはビデオ
以外にも視聴
覚分野に様々
なニーズがあ
ることが判

り、カセット制作や、教会音響・映像設備コンサルタント・設計・施工、さらにOHPや印刷機材などのニーズにも対応をするよう道が開かれました。二十年の歩みの中ではバブル期とバブル崩壊があり困難を覚える期間も短くはありませんでしたが、リーダーの柳沢兄は常にビジョンを高く掲げ、教会のニーズに応える姿勢を堅持しました。惜しくも一昨春秋、十九回目の創立記念日を目前に御許に召されましたが、導きにより昨年（二〇〇三年）五月、創業以来、技術者として柳沢兄の補佐を務めた竹内が、狭山ケーブルテレビ制作課長の職を辞しパラビジョンに復職、代表代行として再起業にあたりました。本年一月、登記変更を行い正式に第二代の代表として任に当たることとなりました。現在は、先方からの要請もあり狭山ケーブルテレビの子会社的立場で働きつつ、CATVなど新媒体による宣教について研究を進めています。お祈りにお覚えくだされば幸いに存じます。

伝団協一泊研修会のお知らせ

「日本をキリストへ」の旗印のもとに設立した伝道団体連絡協議会は、早いもので、二十周年を迎えることができました。恵みの主に感謝したいと思います。

さて、この機会に、もう一度現況を把握しながら原点に戻って「伝団協」の在り方を考えたいと思います。

私たちの団体は「教会」に仕える使命のもとに、ここまで守られ進んできました。教会と伝道団体

は共に助け合い福音の業を担う者として、協力し合い、お互いを知り、理解を深めて各々の伝道団体がバラバラの活動でなく、各々の教会のニーズに合わせられるような方法を取りたいと思われたいです。そのためにも、各伝道団体の相互の働きをもっとよく知り、協力を密にして助け合う必要があると痛感しています。

そこで、今年左記のとおり外部からは講師は招かず、二十年を顧みて大いに意見交換の場とし、新しいスタートを基として、胸襟を開き十分に語っていただき今後の伝団協の有るべき活動の方向性を探りたいと願っています。

テーマ…『伝道団体の理念に学ぶ』

日時…二〇〇四年十月十八日（月）午後三時～

十月十九日（火）正午

場所…ウエルシテイ湯河原（湯河原厚生年金会館）

TEL 〇四六五・六三・三七二一

会費…一泊二食 一万円

内容（予定）…①開会礼拝 ②セッションⅠ・Ⅱ・

Ⅲ ③まとめ・祈り ④閉会礼拝

*交わりと理解の時を大事にしたいと思います。

*各団体から、一名以上の参加をお願いします。

*リクエストがありましたら、お知らせください。

お申し込み・お問い合わせ先

TEL 〇三・三三九一・五〇三五

（または〇三・三三九五・〇一四六）

FAX 〇三・三三九一・五二六六

主催／伝道団体連絡協議会

『日本をキリストへ』伝道団体連絡協議会
第二十回 総会議事録

日時：二〇〇四年四月十九日(月)

午後二時～五時

場所：お茶の水クリスチャンセンター 九〇一室

第一部 礼拝

司会：浅見鶴蔵兄 奏楽：妹尾始子姉
奨励：村上宣道師 「彼らの信仰を見て」

マルコの福音書二章一～五節

中風の人の癒しは、マタイの福音書、マルコの福音書、ルカの福音書にも載っており、よほどこの事柄が印象的だったのでしよう。多少書き方の違いはありますが、三つの福音書とも使っている言葉が五節の「イエスは彼らの信仰を見て」であります。

ここでの中心は、罪の赦しとしての中風の癒しですが、そのきっかけは「……彼らの信仰」であります。ここが強調点です。この中風の人は、「イエスさま助けてください」「癒してください」とは言ってません。イエスもこの人に「治りたいか」「罪赦されたいか」とも、言っておられません。この驚くべき奇跡がなされたのは、まさに、この中風の人を担いできた四人の信仰のゆえだったのです。そして「子よ。あなたの罪は赦されました」という、救い主による最高の恵みの宣言がなされたのです。

伝道団体も教会も、日本の伝道のために、互いに助け合い、一致協力してまいりましょう。

第二部 総会

点呼がなされ、出席団体十二、委任状八、参加三十七団体の三分の一以上の出席が確認され、総会の定数成立が宣言された。議長に、姫井雅夫師、書記は小林幸順兄が推薦されました。

1. 議案

二〇〇三年度活動報告
渋沢浩二師により別紙、活動報告に基づいて報告がなされ、承認された。

二〇〇三年度会計報告
中川信義師により別紙の会計報告に基づいて以下のような説明がなされ、承認された。会費は四十一団体中、二十六団体の二十六万円、二〇〇二年度九団体中三万円、二〇〇一年度六団体中一万円、二〇〇〇年度の一団体は再三連絡をとったが返事がなく、退会となった。二〇〇三年度会計監査報告

2.

二〇〇三年度会計報告
中川信義師により別紙の会計報告に基づいて以下のような説明がなされ、承認された。会費は四十一団体中、二十六団体の二十六万円、二〇〇二年度九団体中三万円、二〇〇一年度六団体中一万円、二〇〇〇年度の一団体は再三連絡をとったが返事がなく、退会となった。二〇〇三年度会計監査報告

3.

二〇〇三年度会計監査報告
監査の辻岡健俊師から、文書をもって報告がなされ、中川師の労に心より感謝を表明。①収入は正確に記載され②収支決算も記載の通りである③領収書も大切に保管されており④預金通帳の現金残高記載も間違いがない、抛つて、会計報告は問題のない事の報告があった。以上の三議案が報告され、了承された。

4.

二〇〇四年度事業計画案
渋沢浩二師により、別紙、活動計画案に基づいて説明がなされた。

2. 一泊研修会、二〇〇四年、湯河原厚生年金会館 講師：松岡広和師「仏教……」を予定しているが、話し合いによっては、変更の可能性がある。

5.

二〇〇四年度会予算案
中川信義師により別紙により、二〇〇四年度予算案の説明がなされた。研修会費は四十三万円とした。伝団協に各団体が積極的に参加していただき、会費納入も協力いただければ幸いであると訴えられた。二〇〇四年度の事業計画案と会計予算案は承認された。

6.

役員改選について
顧問、常任役員の中で、役員会に出られない方々に連絡を取ったところ、滝元先生は、常任役員を辞退させていただきたい旨、連絡をいただいた。二人の先生からは連絡は入っていない。さらに、渋沢さんは、少しくお体の調子がよくないので、K G K の山崎兄に加わっていたいただき、総務の仕事をする事になった。萩生田兄がライフ企画に移られたので、「協力」の編集をE H C の豊田兄が受け継ぎ、P B A の中川さん(会計)も替わられる予定である。村上先生の意見をも含め、会長に姫井雅夫、副会長に浅見鶴蔵、顧問に伝団協に最初からかかわっていらつしやる羽鳥明、村上宣道、多胡元喜の三名と決め、了承された。

7.

その他の議案
意見として、伝道団体協議会が何をしようとしているのか、もう一度考え直し再確認をする時ではないか。教会論、パラチャーチ論も確認する必要がある。大事な問題なので今回の一泊研修会のテーマとしてはどうか、さらに、全国の主だった百教会と太いパイプで繋がりをもち、機関紙「協力」も三千部をキリスト教書店に配送しているので、もっと活用できないか。以上の提案に沿って、今後議論していくことが確認された。

情報交換会、二〇〇五年一月の早い時期

このようにして二十年が過ぎていったのです。

二十回目の総会を期に、役員組織替えを行おうということになり、不肖私が会長を仰せつかり、浅見鶴蔵兄が副会長に、そして六名の役員が選出されました。新しい体制でこれからの活動を進めていこうとしています。各団体、各教会において私たちのために祈りくださるとともにご支援いただきたく存じます。

民数記十三章にはカナン地の地を探るために十二人の斥候が派遣されたことが記されています。戻ってきた彼らの意見では、ヨシユアとカレブのみが「上つていこう」と言い、あとは反対の意思表示でした。結局、イスラエルの民は、すぐにでもカナンの地には入れたのに、この後四十年間の放浪の旅を余儀なくされることになったのです。幻と信仰をもっていたヨシユアとカレブをモーセは活かしきれませんでした。上記のような環境の中で使命のために懸命に活動している伝道団体のために幻と信仰を共有してください、祈り、支えていただけると幸いです。ヨシユアとカレブを活かしきれなかったように、伝道団体の活動を活かしきれないようなことにならないように、いやむしる多いに用いていただきたいと思います。

「伝道協」加盟団体「ニュース・フラッシュ」

●総動員伝道

七月下旬に三重県北牟婁郡海山町にトラクト配布。韓国から三人が応援に。総伝スタッフと二人のボランティア、合計七人で配布。

●日本伝道者協力会

八月三十日、九月一日、湯河原厚生年金会館でリトリートと総会を「クリスチャンはみな伝道者」というテーマで行います。講師は岸義紘師と市村和夫氏。

●高校生聖書伝道協会 (Y.O.A.)

高校生伝道一筋に五十三年やってきました。渋谷にはセンターがありますが、関東と関西の貸し会場で高校生独自の文化に合わせた活動をしています。

●B.F.P. Japan (ブリッジス・フォー・ピース・ジャパン)

ビル・ステイブンス師 (B.F.P. イスラエル支援センター所長) ・栄子師 (B.F.P. Japan 理事長) 夫妻が七月末にイスラエルからアメリカに戻られました。十五年にわたり現地で主の愛の器として働いてきたお二人の尊い証しを大切に、これからも「イスラエルの祝福」という使命に邁進していきたいと思えます。

●日本キリスト伝道会

八月二十三日、二十五日に於いて「第三十六回日本伝道の幻を語る会」を千葉県市川市の山崎製パン企業年金基金会館市川サンシティーで開催いたします。是非、ご参加ください。

(伝道団体連絡協議会とは)

キリスト教界には大きく分けて二つの分野があります。キリストの十字架の血によって罪赦された人々の集まりとしての「教会」と、クリスチャンになった者たちがそれぞれの使命をもって専門的な分野で伝道活動、福祉活動などを行っている「伝道団体」です。この二つはともに協力し合って神の福音を伝え、神の国の拡大に務めています。教会と伝道団体はともに助け合う必要があります。伝道団体がバラバラに活動していたのでは教会にとつて協力しにくいし、伝道団体相互にとつても力を欠くことになりません。そこで連絡のために一つになろうと「伝道団体連絡協議会」が生まれました。現在三十七の団体が傘下にあります。



発行日 二〇〇四年八月二十五日
発行者 姫井雅夫
編集者 豊田義直